

# ベトナム中部山岳地域における植生分布と少数民族による植物利用 -Hong Ha 村を対象として-

村永 有衣子

キーワード： 二次植生、種多様性、土地利用、植物利用、TWINSPAN、DCA

## 1. 背景と目的

ベトナム中部山岳地域では、人々の生活は豊かな自然資源に依存しており、人為の影響を強く受けた二次植生が成立している。このような農村生態系は、生物多様性を有しながらもその著しい劣化が危惧されており、多様性維持への取り組みが必要とされている。よって、本研究では、現存植生の分布と環境（特に人為的影響）との関係を示すとともに、構成種の利用を分析することによって、生物多様性を維持するための基礎的知見を得ることを目的とした。

## 2. 調査方法

2007年8月から11月にベトナム中部 Hong Ha 村において現地調査を行った。村人5名による participatory mapping と transect walk を通して土地利用型を分類し、それを基に設定した29地点で植物社会学的植生調査 (Braun-Branquet 1964) を行った。各調査地点における調査項目は、植物種とその優占度、階層別の地上高・植被率、環境条件、人為攪乱および植物の利用である。調査結果より得られた29箇所の調査地点を TWINSPAN (Hill 1979) により分類し、さらに DCA (Hill and Gauch 1980) で序列化した。成立要因の分析にはスピアマンの順位相関係数を用いた。

## 3. 結果

29箇所の調査地点は TWINSPAN 及び DCA により5群落に識別された (Figure)。環境との影響として DCA1 軸との間に高い相関がみられた要因は、土地利用 ( $\rho=0.833$ )、木材採集 ( $\rho=-0.756$ )、非木材採集 ( $\rho=0.775$ )、アクセス性 (標高:  $\rho=-0.782$ 、川からの距離:  $\rho=-0.636$ 、傾斜角度:  $\rho=0.425$ ) である。DCA2 軸では、薪炭材採集 ( $\rho=0.520$ )、非木材採集 ( $\rho=-0.428$ ) との間に高い相関がみられた。また、構成種の利用調査の結果、各群落の総出現種数の約5割以上が有用種であることがわかった。食物、薬、飼料、薪炭材、建材、その他生活用品等を用途とする植物が広く分布し、すべての群落において多様な植物利用がみられた。

## 4. 結論

この地域の農村生態系は、5つの植生型が識別できること、植生型の成立には、地域住民の植物採集様式に応じた土地利用の差異が強く関与していると結論付けられた。

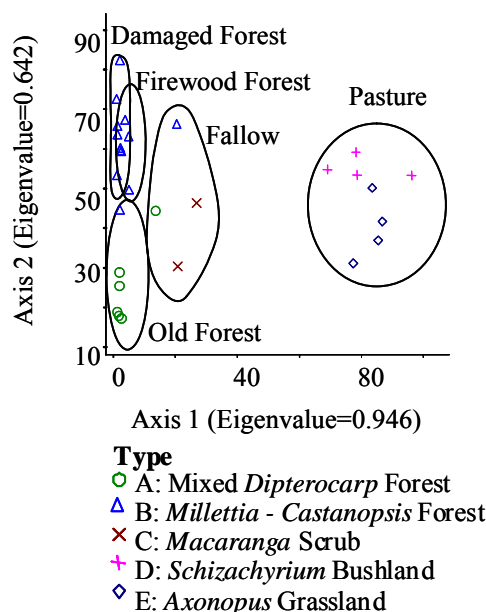


Figure. Ordination of 29 Plots for the first two axes of DCA. 5 community types identified by TWINSPAN were overlaid.

## 参考文献

- Braun-Blanquet, J. (translated by GD Fuller and HS Conard), 1965: Plant sociology: the study of plant communities (Pflanzensoziologie). New York : Hafner Pub. Co.
- Hill, M. O.; H. G. Gauch Jr. 1980: Detrended correspondence analysis: An improved ordination technique. Plant Ecology, Vol. 42 (1-3), pp 47-58.
- Hill, MO , 1979. TWINSPAN, a FORTRAN program for arranging multivariate data in an ordered two-way table by classification of the individuals and attributes. 48pp. Cornell University Press, Ithaca, New York.